

2017年度

事業報告書

(2017年4月1日から2018年3月31日まで)

学校法人 岐阜済美学院

学校法人岐阜済美学院の2017年度の事業概況を次のとおりご報告します。

当学院は地域に根ざす総合教育機関として、福音主義のキリスト教に基づく建学の精神を礎として、福祉・看護・教育等様々な分野に有為な人材を輩出することを重要な方針としています。

大学を取り巻く環境として、文部科学省は2012年「大学改革実行プラン」を発表し、国民や社会の期待に応える大学改革を主体的に実行する体制構築を求め、2013年から2014年度を「改革集中実行期」と位置づけ、2015年度から2017年度に取組の評価・検証、改革の深化発展を求めております。本大学、短期大学部ではこの「大学改革実行プラン」への取り組みとして、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」（COCプラス）に岐阜大学の協力校として本学（大学）が参加し、また岐阜県内の就職率向上に向けたキャリアサポート支援を推進しました。この他、今年度も文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業」の採択を受けました。さらに2015年度からの文部科学省「私立大学経営強化集中支援事業」は、大学及び短期大学部で3年連続採択を受けております。

現在、大学及び短期大学部では、両学長のリーダーシップの下、大学改革を推進しています。ひとつに学院本部との連携を図り、大学経営会議において「第1期中期計画（アクションプラン）」をPDCAサイクルに基づき計画、点検、見直しを推進する仕組みが構築3年目を迎え軌道にのりその機能を果たしています。また、IR推進センターでは、引き続き客観的データに基づく分析と点検を通して、具体的な施策への反映を進めています。また、大学では、2017年度に大学基準協会の大学評価を受け、大学基準協会から「良好」であるとの評価を受けました。短期大学部に於いてもこの大学基準協会の評価を受けるために提出する「自己点検・評価報告書」の申請準備を始めております。

また、本学は、地域における「知の拠点大学」として、教育研究の成果を地域社会に還元するとともに、地域における課題を共有し、自主的に取り組む「地域貢献力」を備えた学生を養成することを目指し、学長のリーダーシップのもと、地域連携推進センター及び国際交流委員会を中心に、国際性に優れた地元志向の学生を養成するための施策を検討しています。本年度は介護や保育など福祉人材の育成、確保を目指すため、岐阜県（健康福祉部）と観光資源の発掘を目指し関市・関市観光協会と競技力向上や健康増進を図るために関市体育協会とそれぞれ連携協定を締結しました。

次に地域連携による具体的な事業も年々活発化しており、本学が参画するネットワーク大学コンソーシアム岐阜による「学生による地域課題解決提案事業」では、地域の課題に取り組む学生の活動成果報告会が12月に開催されました。

岐阜大学を拠点とする文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に参加して3年目を迎え、一つに「美濃と飛騨のふくし」と

題したフィールドワークの展開や介護・福祉・保育関係の「仕事相談会・連絡会」を開催する等、様々な活動や地域との交流事業を実践しました。また、地元貢献する学生育て「地域志向産業リーダーの協働育成」に取り組むため、地域公開講座「スポーツを通じた地域活性化」を開催するなど地域との交流事業を実践しています

また、国際交流事業の一環である、JICA草の根技術協力事業について、2015年4月から2年間「地域活性化事業」で活動してきましたが、その発展型として「パートナー型」に採択され、ベトナムのダナン市・グハンソン地区の病院を中心とする老年ケア・プログラムの定着と人材育成事業に2018年度から取り組むこととなりました。

今年度（2017年度）は、中部学院大学は開設20周年、中部学院大学短期大学部は開設50周年を迎えました。岐阜済美学院100周年記念事業との協働で11月25日には長良川国際会議場で「岐阜済美学院創立100周年記念祭典」を挙行し、卒業生、学生、教職員が一体となって「人づくり100年、未来につなぐ」を具現化し、多くの方々に感銘を与え、本学の教育理念を実感して頂く好機となりました。

高等学校においては、福音主義キリスト教に基づく学校教育を通して、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育てることを目指しています。特色あるカリキュラムにより、教育効果を高め生徒の学力保証と進路希望の実現に邁進しています。また、生徒にあっても進路希望の実現を目指し、各教科及び学科・コースの目標を達成するため、主体的に考え、判断し、行動することなどを通して課題を解決することができるように努めています。生徒が確かな学力とともに豊かな人間性を養い、志望大学に合格し、後に続く生徒の範となりうるような教育を目指した結果、これまで以上に国立大学や難関私立大学へ合格する等、特色ある教育の成果が現れています。

附属幼稚園及び附属桐が丘幼稚園においては、特色ある保育を推進し保護者のニーズに応えています。

1. 教学改革

- ・学生・生徒・園児確保のための魅力ある学院構築
- ・新体育館の建設等、教育環境の一層の充実

2 施設設備の拡充

- ・大学 : 新体育館・クラブハウスの建設 (510百万円)
- ・高校 : 南舎全館防水改修工事 (25,454千円)
- ・附属幼稚園／桐が丘幼稚園 : ホームページリニューアル (719千円)

3. スポーツ等の活躍

<大学・短大>

- ・硬式野球部、東海大学野球秋季岐阜リーグ戦で優勝し、東海大会に優勝。
- ・平岡敬人、プロ野球ドラフト会議で広島東洋カープから6位指名。
- ・陸上競技部、五藤怜奈「日本インカレ」4連覇。
- ・杉村ふうか、高柳優 ジャパンパラ陸上競技大会や日本パラ陸上競技選手権に出場。
- ・ゴルフ部、第61回信夫杯争奪日本大学ゴルフ対抗戦3位入賞。

<高校>

- ・新体操部、陸上部、ライフル射撃部が全国大会に出場。特にライフル射撃部で個人優勝を果たす。

<幼稚園>

- ・附属幼稚園、第77回全国教育美術展で園児2名が入選。
- ・桐が丘幼稚園、第41回こども絵画全国コンクールで園児9名が入選。

4. 今後の課題

1) 大学

①教育体制の充実・強化

- ・特色ある教育プログラムの積極的な展開（教員への教育支援（FD）、国家試験対策の充実・強化）
- ・学生募集戦略の強化
- ・退学率減少に向けた施策強化

②財政基盤の整備・強化

- ・予算管理の充実（管理経費の見直しによる最適化）
- ・各種業務の再構築（ビジネスプロセスの見直しによる業務の有効性・効率性向上、購買方法の見直しによる効率的な発注システムの構築）
- ・外部資金の受け入れ強化

③人材育成の強化

- ・人材育成ポリシーの策定
- ・キャリアパス、研修制度の充実、SD教育

2) 高校

- ・教職員が危機意識を共有し自己の資質の向上とモチベーションの高揚に努め、一致協力して、教育の質を保証する学校を着実に具現

3) 幼稚園

- ・特色のある園・保育の推進

目次

I 法人の概要

- 1. 設置する学校・学部・学科等 5
- 2. 学院設置学校（園）の入学定員及び学生・生徒・園児の状況 5

II 事業の概要

- 1. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部の事業 9
- 2. 済美高等学校の事業 13
- 3. 中部学院大学短期大学部附属幼稚園の事業 18
- 4. 中部学院大学短期大学部附属桐が丘幼稚園の事業 20

I 法人の概要

1. 設置する学校・学部・学科等

- * 中部学院大学[1996（平 8）年 12 月設置] 関市桐ヶ丘 各務原市那加
 大学院 人間福祉学研究科 人間福祉学専攻 [修士課程] [博士課程（後期）]
 人間福祉学部 人間福祉学科
 教育学部 子ども教育学科
 看護リハビリテーション学部 理学療法学科・看護学科
 経営学部 経営学科
 スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科
 通信教育部 人間福祉学部 人間福祉学科
 留学生別科
- * 中部学院大学短期大学部[1967（昭和 42）年 1 月設置] 関市桐ヶ丘 各務原市那加
 幼児教育学科
 社会福祉学科
 専攻科(福祉)
- * 済美高等学校[1918（大 7）年 9 月設置] 岐阜市正法寺町
 男女共学部 普通科・商業科
 女子部 普通科・保育科・衛生看護科
- * 中部学院大学短期大学部附属幼稚園[1973（昭和 48）年 2 月設置] 岐阜市下土居
- * 中部学院大学短期大学部附属桐が丘幼稚園[1979（昭和 54）年 12 月設置] 関市桐ヶ丘

2. 学院設置学校（園）の学生・生徒・園児数

2017.5.1 現在

(1) 学校別総計

(単位 人)

学 校 名	学生・生徒・園児数
中部学院大学大学院	21
中部学院大学	1,435
中部学院大学（通信教育部）	680
中部学院大学（留学生別科）	10
中部学院大学短期大学部	347
済美高等学校	801
中部学院大学・中部学院大学短期大学部附属幼稚園	200
中部学院大学・中部学院大学短期大学部附属桐が丘幼稚園	164
子ども家庭支援センター（桐が丘幼稚園分室）	15
計	3,673

(2) 各学校別学部・学科別学生・生徒・園児数

＜中部学院大学（学部・学年別）学生数＞

(単位 人)

学部・学科	入学院員	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	計
人間福祉学研究所						
修士課程	5	4(4)	5(1)	-	-	9(5)
博士課程	3	3(1)	2(1)	7(4)	-	12(6)
計	8	7(5)	7(2)	7(4)	-	21(11)
人間福祉学部						
人間福祉学科	100	75(35)	62(26)	85(42)	86(51)	308(154)
健康福祉学科					1(0)	1(0)
計	100	75(35)	62(26)	85(42)	87(51)	309(154)
教育学部						
子ども教育学科	80	59(21)	64(19)	84(13)	70(27)	277(80)
看護リハビリテーション学部						
理学療法学科	60	59(35)	66(47)	58(40)	68(45)	251(167)
看護学科	80	71(9)	79(28)	69(16)	75(12)	294(65)
計	140	130(44)	145(75)	127(56)	143(57)	545(232)
経営学部						
経営学科			84(75)	59(50)	77(58)	220(183)
スポーツ健康科学部						
スポーツ健康科学科	80	84(69)				84(69)
合 計	408	355(174)	362(197)	362(165)	377(193)	1,456(729)
通信教育部 (正科生)	300	35(5)	76(31)	122(35)	447(155)	680(226)
留学生別科	30	10(4)				10(4)
総 計	738	400(183)	438(228)	484(200)	824(348)	2,146(959)

注 () 内は、男子数で内数

人間福祉学科3年次編入定員15人・子ども教育学科3年次編入定員10人

通信教育部1学年の入学手続き締切は6/14

2014年4月よりリハビリテーション学部を看護リハビリテーション学部に変更

2015年4月より子ども学部子ども学科を教育学部子ども教育学科に変更

2017年4月よりスポーツ健康科学部スポーツ健康学科開設

留学生(人間福祉学科25人,経営学科19人,計44人)

< 中部学院大学短期大学部（学科・学年別）学生数 >

(単位 人)

学 科	入学定員	1 学年	2 学年	計
幼児教育学科	100	103 (5)	97 (6)	200 (11)
社会福祉学科	80	72 (17)	71 (16)	143 (33)
計	180	175 (22)	168 (22)	343 (44)
専 攻 科	30	4 (0)	—	4 (0)
総 計	210	179 (22)	168 (22)	347 (44)

注 () 内は、男子数で内数

社会福祉学科のうち、委託訓練生 38 名 (1 年生 21 名、2 年生 17 名) 含む

< 済美高等学校（科・学年別）生徒数 >

(単位 人)

学 科	募集定員	1 学年	2 学年	3 学年	計
男女共学部普通科	115	104(41) [4]	38(17) [2]	38(15) [2]	180(73) [8]
男女共学部商業科	40	13(8) [1]	20(7) [1]		33(15) [2]
女子部普通科	110	78 [3]	131 [4]	128 [4]	337 [11]
女子部保育科	60	45 [2]	48 [2]	44 [2]	137 [6]
女子部 衛生看護科	40	36 [1]	21 [1]	30 [1]	87 [3]
女子部商業科	—			27 [1]	27 [1]
計	365	276(49) [11]	258(24) [10]	267(15) [10]	801(88) [31]

注 () 内は、男子数で内数

[] 内は、クラス数

< 中部学院大学・中部学院大学短期大学部附属・幼稚園(年齢別)園児数 > (単位 人)

	収容定員	満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
附属幼稚園	200	1 [1]	68 [3]	62 [2]	69 [2]	200 [8]
桐が丘幼稚園	200	2 [1]	47 [3]	55 [2]	60 [2]	164 [8]
計	400	3 [2]	115 [6]	117 [4]	129 [4]	364 [16]

注 [] 内は、クラス数

< 子ども家庭支援センター(桐が丘幼稚園分室) 幼児数 > (単位 人)

	幼 児
ひよこ	15

< シティカレッジ関(延べ受講者数) >

	前 期	後 期	計
ビジネス系講座	12	19	31
福祉系講習	119	83	202
外国語講座	85	86	171
健康・スポーツ講座	320	219	539
教養・趣味等講座	203	133	336
わかくさプラザ開講講座	—	115	115
キッズ講座	—	131	131
計	739	786	1,525

< シティカレッジ各務原(延べ受講者数) >

	前 期	後 期	計
アインシュタインコース	195	205	400
ソクラテスコース	481	450	931
レオナルドダビンチコース	266	199	465
計	942	854	1,796

※アインシュタインコース : 特別な分野に興味・関心を持つ中学生までのコース

ソクラテスコース : ゆっくりじっくりと自分独自の大学生活を味わうコース

レオナルドダビンチコース : 道を究め専門的な技術や知識を高めるコース

II 事業の概要

1. 中部学院大学・中部学院大学短期大学の事業

1. 教育方針

中部学院大学並びに中部学院大学短期大学部は、キリスト教福音主義のもと建学の精神を「神を畏れることは知識のはじめである」と定め、医療・介護・教育・福祉・スポーツ健康・経営の各領域に亘る現場経験の豊富な教授陣による教育と、こころ豊かな人間性を育む生活環境を整え、一人ひとりの学生に対して自分自身の未来を実現するための指導体制を展開しています。

2-1. 事業報告(大学)

2017年度は、大学院7名(修士4名、博士3名)、大学347名、留学生別科10名、総数364名(さらに通信教育部は283名)が大学に入学しました。

特に既設の「経営学部経営学科」(80名)の定員を振り替える形で「スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科」(80名)の認可を受けた「スポーツ健康科学部」は、84名の新入学生を迎え順調な滑り出しとなりました。

この学部の設置を踏まえ体育館の建て替え及び運動学実習棟の新設をいたしました。新しい体育館は鉄骨2階建て、延床面積は約2,830㎡、運動学実習棟は、鉄骨平屋建て、床面積は約455㎡となり、学部での使用のほかに、各運動部の活動に対する環境が一段と整いました。

この体育館の柿落としに当たっては、岐阜済美学院100周年記念事業の一環として、6月10日に体育館竣工記念式典を行い竣工式、記念公演(義足のプロダンサー大前光市氏を招いてのダンスパフォーマンス及び済美高校男子新体操部による演技)及び記念講演会を行いました。

また、満足度100%を目指すキャリア支援センターでは、きめ細かな就職指導を行った結果、2018年3月の卒業生の就職率は98.4%となっています。この他、本学では、各種国家試験の合格を支援するため様々な取組を推進していますが、看護リハビリテーション学部看護学科一期生の看護師国家試験の合格率が100%を達成しました。

少子化による大学全入時代に突入し、本学のみならず各大学の学生募集の厳しさが増していますが、今後も全学部の定員確保を最優先課題とし取り組みます。

2-2. 事業報告(短期大学部)

2017年度は、175名が短期大学部に入学しました。この中には、国の介護人材確保・離職者支援事業である介護福祉士養成科の訓練生21名、社会福祉学科「美・デザインコース」の学生18名が含まれています。

2018年3月の卒業生における短期大学部の就職希望者における就職

率は100%を維持し、これで幼児教育学科は16年連続、社会福祉学科は15年連続、就職率100%となります。このような高い就職実績を残すことができたのは、短期大学部教員とキャリア支援センターが一体となり、就職支援を拡充し、就職、キャリア支援に取り組んだ成果だと考えています。

また、幼児教育・保育・介護福祉分野の資格を併せ持つ人材を29年に渡り輩出してきた幼児教育学科「福祉専攻科」は、介護福祉離れという時代の流れには抗えず今年度を持って閉じることとなりました。

2-3. 事業報告(大学・短期大学部)

1) 大学改革に向けて

大学及び短期大学部では、両学長のリーダーシップの下、大学改革を推進しています。まず、大学経営会議においては、「第1期中期計画(アクションプラン)」をPDCAサイクルに基づき計画、点検、見直しを推進する仕組みが構築3年目を迎え軌道に乗り、その機能を果たしています。

また、IR推進センターでは、引き続き客観的データに基づく分析と点検を通して、具体的な施策への反映を進めています。具体的には、内部質保証の充実に向けた学内調査の刷新や教員の教育・研究等の活動を顕在化する取組みを通して、本学の強みを整理し、施策の選択と集中を図れる組織作りを目指しています。この他、福祉施設と連携した留学生受入れ事業や介護福祉士実務者研修制度の発足等、本学の人的資源を生かした施策を推進しています。

また、今年度も文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」、「私立大学経営強化集中支援事業」の各種補助金事業の採択を受けました。これは、本学の教育改革の推進が一定の評価を得ている証と捉えています。

次に、大学では、2016年度に「自己点検・評価報告書」の申請を行い、2017度に大学基準協会の大学評価を受けました。その結果、「良好」との評価を受けました。短期大学部においては、2019年度に大学基準協会の評価を受けるために提出する「自己点検・評価報告書」の準備を始めました。

今年度(2017年度)は、中部学院大学は開設20周年、中部学院大学短期大学部は開設50周年を迎えました。岐阜済美学院100周年記念事業との協働で11月25日には長良川国際会議場で「岐阜済美学院創立100周年記念祭典」を挙行し、卒業生、学生、教職員が一体となって「人づくり100年、未来につなぐ」を具現化し、多くの方々に感銘を与え、本学の教育理念を実感して頂く好機となりました。

2) 地域連携・国際交流

本学は、地域における「知の拠点大学」として、教育研究の成果を地域社会に還元するとともに、地域における課題を共有し、自主的に取り組む

「地域貢献力」を備えた学生を養成することを目指し、学長のリーダーシップのもと、地域連携推進センター及び国際交流委員会を中心に、国際性に優れた地元志向の学生を養成するための施策を検討しています。

本年度は介護や保育など福祉人材の育成、確保を目指すため岐阜県（健康福祉部）と、観光資源の発掘を目指し関市・関市観光協会と競技力向上や健康増進を図るため関市体育協会とそれぞれ連携協定を締結しました。これで、本学と連携協定を締結した行政、社会福祉協議会、企業、大学、組合等は41団体となりました。

また、本学と連携締結している自治体・社会福祉協議会・企業等と本学教員との「研究交流会」を初めて開催しました。連携自治体・企業・団体から34名、本学教職員44名の参加を得て、今後の地域との連携活動につながる有意義な交流会となり、今後も継続な開催を計画しています。さらに、(株)大垣共立銀行、(株)トーカイとの三者による合同事業「地域公開講座」と「福祉用具展示会」を開催しました。

次に地域連携による具体的な事業も年々活発化しており、本学が参画するネットワーク大学コンソーシアム岐阜による「学生による地域課題解決提案事業」では、地域の課題に取り組む学生の活動成果報告会が12月に開催され、本学教育学部子ども教育学科のゼミ生による2件の発表を行いました。

また、岐阜大学を拠点とする文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に参加して3年目を迎え、「美濃と飛騨のふくし」と題したフィールドワークの展開や介護・福祉・保育関係の「仕事相談会・連絡会」を6月には西濃地区（大垣市）で、7月には飛騨地区（高山市）で開催し、様々な活動や地域との交流事業を実践しました。

また、本学の国際化ビジョンに基づき、学生の海外留学の促進を図るため、2017年8月にはタイ（11名参加）、2018年3月にはハワイ（10名参加）、同じく3月にベトナム（16名参加）での、海外研修、海外交流旅行を実施しました。

次に、国際交流事業の一環である、JICA草の根技術協力事業について、2015年4月から2年間「地域活性化事業」で活動してきましたが、その発展型として「パートナー型」に採択され、ベトナムのダナン市・グハンソン地区の病院を中心とする老年ケア・プログラムの定着と人材育成事業に2018年度から取り組むこととなりました。

3) 学生の課外活動

2017年度も学生が課外・クラブ活動において多くの実績を残してくれました。

硬式野球部は、東海大学野球秋季岐阜リーグ戦で優勝し、東海大会においても優勝しました。また、同部所属で経営学部の平岡敬人投手は10月のプロ野球ドラフト会議で広島東洋カープから6位の指名を受けました。

9月には、陸上競技部で人間福祉学部の五藤怜奈（済美高校出身）が福井県で開かれた「日本学生陸上競技対校選手権大会（日本インカレ）」に出場し、女子10000m競歩で四連覇を達成しました。また同じく人間福祉学部の杉村ふうかと高柳優の両名もジャパンパラ陸上競技大会や日本パラ陸上競技選手権大会に出場しています。

ゴルフ部の活躍も目覚しく、中部学生ゴルフ春季1・2部大学対抗戦で6年連続優勝し全国大会にも6年連続出場しています。秋に行われた信夫杯争奪日本大学ゴルフ対抗戦では過去最高の全国3位に入賞しました。個人においても経営学部の岩淵隆作が日本ゴルフ選手権競技において5位に入賞するなど好成績を収めています。

また、長年にわたり県内の福祉施設や児童施設をはじめ各種イベント等において、多くの学生がボランティア活動に取り組んでおり、多方面から高い評価をいただいております。

2. 済美高等学校の事業

1. 教育方針

福音主義キリスト教に基づく学校教育を通して、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育てることを目指しています。教職員にあつては、生徒の安全と学力保証を第一に考え、危機管理意識を共有しつつ、教育目標を明確にして、その具現化に努めるとともに、教育専門職としての矜持を持ち、常に自己の資質向上に努め、生徒の学力保証と進路希望の実現に邁進しています。また、生徒にあつても進路希望の実現を目指し、各教科及び学科・コースの目標を達成するため、主体的に考え、判断し、行動することなどを通して課題を解決することができるように努めています。

2. 教育活動計画

【普通科】

1) 『共学部普通科』（「選抜特進」「特進」「進学Ⅰ類」）

「選抜特進」「特進」「進学Ⅰ類」の3つのコースを有する3年生の共学部普通科では、「学力をつけて、一般入試で四年制大学へ進学する」という方針を掲げ、進学指導のしくみの構築に専心しています。

この数年は、校長先生の進路講話を生徒及び保護者向けに何度も実施して進学に対する意識を育てること、模擬試験を有効に活用して学習を継続すること、さらに、昨年からは平日17時35分まで、授業後も済美塾を開講するなど教科指導に力を入れてきました。その成果として今年3月の卒業生38人のうち1組の「選抜特進」「特進」13人から9人が国公立大に合格しました。(合格率は70%)。また、2組の「進学Ⅰ類」からも2人が国公立大に合格しています。

国公立大合格数13人の内訳は岐阜大2、滋賀大2、信州大1、滋賀県立大2、岐阜県立看護大1、金沢美術工芸大1、高知工科大1、釧路公立大1、諏訪東京理科大2。私立大でも、同志社大1、立命館大1、関西大5、関西学院大1のほか、中部地区では南山大3、愛知大4、名城大7、中京大11、愛知学院大11と多くの生徒が合格し進学しています。

2) 『女子部普通科』（進学Ⅱ・健康福祉・生活文化）

「進学Ⅱ類コース」においては、基礎学力を定着化し、地元私立大学への進学を、「健康福祉コース」では、健康・福祉の基礎・基本を身につけ健康福祉系の大学進学や就職を、また、「生活文化コース」では、食物・ファッション等の基礎・基本を身につけ家政科系の大学進学や就職を目指しました。なお、「生活文化コース」では、大垣ファッションフェスティバル実物製作作品のコンテストにおいて、8名の生徒が参加し、応募作品全62作品の中から、1名の作品が奨励賞に選ばれました。今年度の進路結果については、同志社大学をはじめ四大に30名の合格を果たすことができました。また、一般推薦入試においても岐阜市立女子短期大学に合格するな

ど着実に学力の向上を図ることができています。中部学院大学の合格者数は、大学が25名、短期大学部は43名となっています。

他の主な進学先は以下の通りです。

<大学名>

- ・中部学院大学・同志社大学・愛知学院大学・愛知淑徳大学・金城学院大学
- ・椋山女学園大学・中部大学・名古屋学院大学・名古屋芸術大学 等

【保育科】

学科教育の特色を明確にし、幼児教育・保育系の大学・短大への進学が出来る学力を保証し、将来保育の専門職に従事できる基礎的な知識・技能等を習得することを目指しました。1年生では中学教育と高等学校教育の円滑な接続を図るとともにキャリア教育の一環として保育体験学習を1日、2・3年生では保育実習を5日間実施し、将来、幼児教育、保育に関わる者としての態度を育てることを目指しました。その結果、保育技術検定1級に34名（3年生34名）、2級に54名（3年生14名、2年生40名）、3級に36名（3年生1名、2年生35名）が合格しました。また、進学においては、中部学院大や金城学院大などの四大に10名（22.7%）、中部学院大学短期大学部や青山学院女子短期大学部などの短大に34名（77.3%）が合格しました。

【商業科】

新しい学科教育の特色を明確にし、経営・情報系の大学・短大への進学が出来る学力を保証し、将来商業の専門職に従事できる基礎的な知識・技能等を習得することを目指しました。又、進化するICT社会に対応できる簿記やパソコン等、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得し、21世紀の社会・経済活動等に必要な能力や態度を養うことを目指しました。その実現のために、簿記専門学校との提携、中部学院大学講師を招いての簿記授業の実施、全国高校生ビジネスプラングランプリへの参加もしています。1年生は、簿記教育強化策の徹底により、全国商業簿記検定2級の全員合格を果たすことができました。さらに、資格取得による難関大学等への合格を目指し、放課後などの補習もほぼ全員が参加し、確実に力が身につけていることが実感できるようになりました。

【衛生看護科】

看護に関する基礎的な知識・技術を習得し、准看護師試験受験資格を得るとともに、将来、看護師となるための資質・能力・態度や豊かな人間性の養成を目指しました。今年度も、7年連続で准看護師試験に全員合格しています。進学先として、四大へ6名、短大へ4名、高看へ19名進学しました。

3. 広報活動

【入試広報】

中学生及びその保護者や中学校の教職員等に、高校生としての学力を保証する中で生徒の進路希望を確立し、それを確実に実現する本校教育の良さを理解していただき、本校への信頼を高めています。又、生徒や教職員の活動成果を適時適切に広報し、入学した生徒が着実に成長している姿を理解いただく中で適格者を確保し、入学定員を充足するように努めました。入試広報活動に対して全教職員の一致協力体制をより強固なものとするとともに、岐阜・西濃・羽島の各地区において、学校説明会の内容を更に充実し、学校教育の成果を直接PRしました。なお、他校の動向や受験環境等の変化の中での活動となりましたが志願者数1,074名、入学者数は265名で前年比志願者7名増加、入学者9名減少に留まる結果となりました。

4. 学校教育改革計画

【宗教】

計画的な指導を通して、本校生徒に相応しい豊かな心を育てるべく、求める生徒像を学年別に具体的に示しました。また、聖書・礼拝指導の内容の充実に努めました。

【学校経営】

教職員が一致協力して、教育専門職としての矜持を持ち、教科指導、生徒指導、部活動指導等に専念し、学校教育目標が達成できる「信頼される学校づくり」に努力しました。

【学業指導】

新入生に対しては、学び直し指導を計画的に実施し、基礎的な学力の定着を図り、成果と課題については、研修職員会議などで確認した上、高校における学業指導に入りました。また、全体的には、生徒の実態や個に応じた指導を徹底すべく、教育課程を研究改善し、適切な教科書選定を行いました。

また、本校は、多くの学科・コースを抱えるため、各教科・学部・学科・コースの特色を鑑み、各教科・学部・学科・コース・各分掌間の連携を図り、学業指導の充実に努めました。普通科については、済美塾をはじめとするとりくみや、英検対策などを充実させ、大学進学実績において、大きな成果を得るに至りました。商業科については、専門科目の中でも簿記検定指導を充実させ、高い合格率を誇る状態にあります。保育科、衛生看護科についても、従来通り、専門科目の学業指導は充実した状態にあり、専門分野への確実な進学、准看資格試験100%合格などが、その成果を実証しています。現在は、入学時のレベルの向上に伴い、さらなる学業指導の改善、学科間の特色を活かしつつ、転科を可能とする教育課程の改善などに向け、検討をすすめています。

【生徒指導】

全教職員の共通理解のもと、教科、特別活動、総合的な学習の時間、部活動の指導における生徒指導を徹底し、さわやかな挨拶の励行、端正な身嗜みの保持、交通安全マナーの遵守などの基本的な生活習慣の確立に努めました。また、学校・学級への適応指導と教育相談を充実し、生徒相互の望ましい人間関係を確立し、生徒一人ひとりが学級の一員として目標を持って、遅刻や欠席及び早退の無い、積極的な学校生活を送れるように指導することや、男女交際の在り方や性に関する指導及びスマートフォン・タブレット等の情報機器の活用について計画的・組織的・効果的な指導に努めました。

【進路指導】

ホームルーム活動や総合的な学習の時間及び教科指導など、全教育活動を通して計画的組織的に実施し、生徒一人ひとりに自己理解力や進路選択の決定能力を育てつつ、望ましい職業観や勤労観を育てるキャリア教育を行い、生徒の進路目標の達成に努めました。今年度、国公立大学への合格者数13名、四大合格者数181名でした。また、卒業生267名の進路は、四大へ86名、短大へ84名、高専へ21名、各種専門学校へ27名、就職45名、その他4名となりました。

【保健厚生】

生徒の保健・健康・安全指導を計画的に実施し、生徒の健やかな心身を育むとともに、毎日の清掃美化活動を徹底し、美しい教育環境を実現することに努めました。具体的には、生徒・職員双方に向けた救急救命法講習会、災害への適切な対応が出来るような防災教育と共に、自他の生命を守るため、緊急地震速報などを活用した具体的な避難訓練の実施、関係機関等との協力、健全な保健・厚生に関わる教育活動の実践を目指した学校安全衛生委員会、学校保健安全委員会を実施しました。

【図書】

生徒の実態に即した図書の充実整備及び生徒の読書活動の推進に努め、みずみずしい感性と豊かな人間性を育てることに努めました。具体的には、読書指導の充実（クラス別新入生向けオリエンテーション）を図り、生徒の図書館利用度を高めることに努めました。学校での「古本市」、夏季休暇後の「読書感想文コンクール」を開催するなど、図書館活動を積極的に展開しました。その結果、生徒への本の貸出数は、年間2,777冊（1人当たり約3.5冊）となっており、さらに増加させたいと考えています。

【特別活動】

キリスト教主義教育の基本の上に立ち、ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事・部活動における指導目標と計画を明確にし、指導内容及び指導方法のさらなる改善に努めました。また、生徒会役員選挙やホームルーム活動では、主権者教育を念頭に置き、生徒の公民的な資質の育成や個性の伸長を図り、学校生活における存在感や学校への帰属意識を高めるように

努めました。また環境美化活動として、「花いっぱい運動」を行い、チューリップ、ひまわりを校舎の周りいっぱい咲かすことができました。

【渉外】

教職員と生徒・保護者・同窓生との連携を深めることを目的に、以下の主な取り組みを行い、充実した成果を挙げることができました。

1) P T A総会出席者数：407名（出席率50.7%、前年比+2名）

2) P T A郊外研修（名城大学・愛知大学）参加者数：22名

3) 私立高等学校補助金増額請願署名数：40,087筆

（前年比+547筆）

4) 『済美祭』P T A食品バザー：2,421食完売（前年比+634食）

5) P Tフォーラム『1.2年保護者進路説明会』出席者数：223名

来年度は、保護者・同窓生の協力の下素晴らしい済美高等学校創立100周年を迎えたいと思います

【部活動】

今年度も新体操部、陸上部、ライフル射撃部が全国大会に出場しました。特にライフル射撃部では個人優勝を果たすことができました。部活動全般にわたり活動内容も充実しています。運動部だけでなく文化系も毎年地域貢献を果たすための活動を行い活躍しています。活躍の状況等については随時ホームページでお知らせしています。

5. 環境整備状況

1) 教育用機器備品等の整備

全館Wi-Fi対応とした学習環境の向上	5,000千円
教室黒板の修繕	494千円
タブレット端末の導入（新規に100台）	446千円
デジタル複合機FAXの購入	243千円
プログラムチャイム一式の導入	263千円
校用車の新車更新	817千円
マイクロバスの新規購入（同窓会寄贈）	0千円
その他備品修繕等 8件	1,461千円

2) 施設の修繕・整備

南舎全館防水改修工事	25,454千円
走り幅跳び用助走路・投擲サークル等新設工事	10,692千円
体育館東面懸垂幕2基設置工事	1,599千円
グラウンド防球ネット支柱修繕工事	864千円
第2進路室エアコン設置	650千円
消火栓ホースの更新	416千円
グラウンドLED照明器具の設置（部活動後援会寄贈）	0千円

3. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部

附属幼稚園の事業

1. 教育方針

- 1) 建学の精神を深く理解し、神と人とを愛するキリスト教精神による感動・感化・感謝に結ぶ『明るい楽しい愛の幼稚園』経営に努める。
- 2) 体験やふれあいを基にした自然体験活動や造形・音楽表現活動に力を入れ、園児一人ひとりの個性や感性の伸長に努める。国際交流や福祉施設への訪問等を通して交流を深める。
- 3) 教職員研修を通して教師の資質を高め、園児一人ひとりの安全と保育に責任を持ち保護者や地域社会の人々から安心と信頼を得られるような経営をする。また、子育て相談を充実させ開かれた幼稚園を目指し、情熱と知恵をもって保育に当たる。

2. 教育目標 『心豊かな たくましい子の育成』

3. 園児の募集及び確保

- 1) 特色ある保育の推進
 - ・教材・教具の整備・図工指導の充実・教職員研修の充実・幼稚園連合会等への分担金
- 2) 開かれた園づくりの充実
 - ・親子わくわく教室の充実・にこにこプラザ事業の充実・小学校との連携強化・福祉施設への訪問・子育て相談ふれあいサロンの実施
- 3) 保育環境の整備充実
 - ・給水漏水工事 ・運動場の整備 ・砂場・築山・植木等の補修整備
 - ・飼育・栽培関連等管理の充実
- 4) 広報活動の充実
 - ・園児募集パンフレットの充実・3園連携したホームページ関連の充実
 - ・月刊雑誌での広報

4. 安心・安全の推進

- 1) 通園バスの安全運転管理
 - ・安全に備えた指導・管理の徹底 ・車検・点検等の徹底 ・安全運転管理部会分担金
- 2) 食育の安全と充実
 - ・安全な食材、食料品の確保・食器、調理用具の充実・食育用具の充実
 - ・防災備蓄用品の入れ替え・害虫駆除及び衛生管理の充実・アレルギー対応
- 3) 園生活の安全確保と事故防止
 - ・遊具の安全点検と整備・遊具の交換・バスロケーションサービスの充実・緊急メールシステム導入

5. 施設設備及び機器備品等の予算措置

< 環境の整備 >

漏水防止配管工事	5,728千円
運動場の整備・北駐車場整備	1,000千円
遊戯室天井工事	147千円
移動用放送設備	607千円
2連ブランコ取替	174千円

< 備品の充実 >

アップライトピアノ	454千円
遮熱用テント	210千円
収納ベット付き医療用戸棚)	200千円

< 広報活動の充実 >

入園案内パンフレット	303千円
------------	-------

< 食の安全と充実 >

炊飯器の買替え	74千円
---------	------

4. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部 附属桐が丘幼稚園の事業

1. 教育方針

- 1) キリスト教精神による宗教的情操を養い、人を愛するやさしさ、自分で考えるかしこさ、創りだすたくましさを育てることを目指す。
- 2) 豊かな自然や広い園庭を活用して、豊かな感性とたくましい体の育成に努める。
- 3) 楽しくのびのび生活する中で、きまりの大切さや生活に必要なマナーの定着を図る。
- 4) 一人一人に寄り添い、誠意と愛情をもって保育の実践に努める。

2. 教育目標 「なかまとともに 豊かな心とたくましい体をはぐくむ子」

- 1) 元気に遊ぶ子（自立）
- 2) 仲良く助け合う子（共生）
- 3) 見つけ創り出す子（創造性）

3. 重点施策：アクションプラン具現に向けての人的・物的環境の整備

- 1) 特色ある幼稚園づくり
 - ・自然遊びの充実・・・感性を育む活動として重視
 - ・外あそびの充実・・・健康づくり・体力づくり・友だちづくり
- 2) 社会の変化に対応する教育
 - ・新しい幼稚園教育要領の理解と趣旨を生かした保育
 - ・学校評価の実施と改善（幼稚園協議会の充実）
- 3) 安全・安心の推進
 - ・防犯カメラの増設による不審者対策と緊急メールシステムの活用
 - ・遊具や砂場等の保守点検の徹底
- 4) 保護者のニーズに応える保育
 - ・長期休業中における預かり保育の日数を増加
- 5) 地域における子育て支援センター機能
 - ・子育てファミリープラザ（コミママプラザ）の推進
 - ・未就園児事業「いっしょにあそぼう」の充実
- 6) 広報活動
 - ・ホームページのリニューアルと活用
 - ・園庭開放の積極的实施と関市情報誌「きらら」掲載

4. 施設設備及び機器備品

冷凍冷蔵庫（給食室）	7 9 0 千円
ホームページリニューアル	7 1 9 千円
遊戯室カーテン取替工事	4 1 1 千円
淡水魚の水槽の設置（初期投資とメンテナンス）	3 0 1 千円
ステンレスシンク取付け工事（西手洗い場）	2 6 6 千円
防犯カメラの増設	2 4 0 千円
学習動物園（100周年記念事業）	1 2 5 千円